

イギリス庭園紹介 4

中 田 久 雄

東部

●ケムブリッジシャー (CAMBRIDGESHIRE)

北はリンカンシャー、西はノーサンプトンシャーとベドファドシャー、南はファーフアドシャーとエシックス、東はノーファクとサファクに接する略々方形の地域である。北部はグレイトウース川の下流域の低湿地フェンランドをなし、一般に低平地でチョークの上に粘土や砂土を載せた地質である。気候温暖で年間降水量はイングランド最低で635mm 以下である。州の南部ケム川の徒渉地として発生し、後に大学の町として発展した州都ケムブリッジがある。

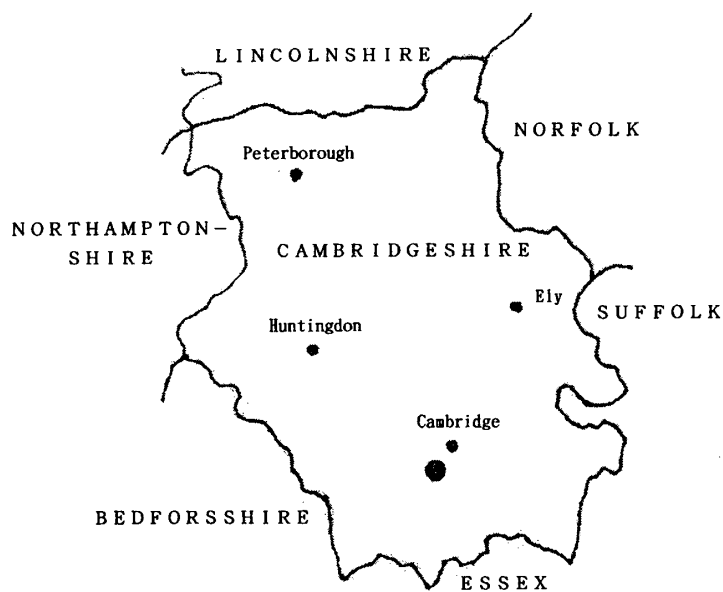


図1 ケムブリッジシャー州地図

●ケムブリッジ大学植物園

◎ケムブリッジ大学植物園 (Cambridge University Botanic Garden)

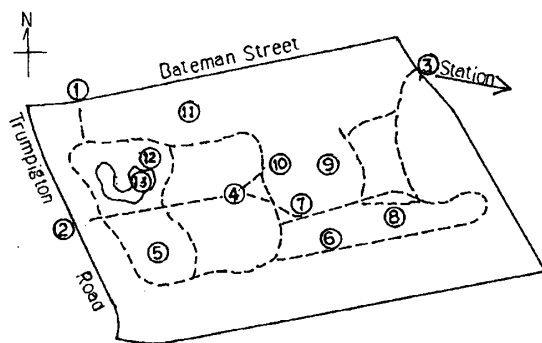


図2 ケムブリッジ大学植物園地図

- ①ベイツマンストリート ゲイト
- ②トランピントン ゲイト
- ③ステーションロード ゲイト
- ④噴水 ⑤系統分類園 ⑥バラ園
- ⑦生態学的展示地域 ⑧年代花壇
- ⑨コウリイ ロッジ ⑩ギルモア ビルディング
- ⑪温室 ⑫ロックガーデン ⑬水湿園

1762年以来町の中心部の2ヘクタールの土地に開設され、1831年にヘンズロウ教授により16ヘクタールの現在地に移転設立されたものである。

町の中心部から約1キロメートル離れたベイツマンストリートからの入り口から入り、直進しサワグルミやトチ、カエデ等の林地を抜けると右手に旧庭園から移築された立派な鋳鉄製のトラムピントンゲイトがあるが現在は閉鎖されている。

ゲイトの近くに生きた化石として知られるメタセコイアの巨木が一際高くそびえている。ゲイトから広いメインウォークが、針葉樹の並木を伴って真っすぐに伸びている。メインウォークの右側には60アールの中に大小様々な形の144のベッドを設け、約80科1600種に及ぶ宿根植物が系統分類に従って配列展示されている。左手の広い芝生の彼方に温室群を眺めながら進むと突き当たり直径10メートル程の円形の池の中央6カ所に段違いの水盤を配し、夫々に噴口を備えた噴水が設けられている。池の周囲には木製ベンチが置かれ、その



写真1 メタセコイア：
ケムブリッジ大学植物園

外周に低いツゲの刈り込みが回らされている。ここから狭い園路が二手に分かれ、右に道を取りブナ、カバ、ハンノキの木立を抜けると右手の広い芝地の奥にバラの品種見本園、道の左側にはヘッジを背にして石灰岩地帯、海岸、湿地帯等生態学的地域別にイギリス土着の植物が配置展示されている。その先にはヘッジで囲まれた遺伝学展示園、更に幹や葉、花、果実が11月から4月の冬期間に映える耐寒性植物を集めたウィンターガーデンが続き、園路の反対側、芝地の

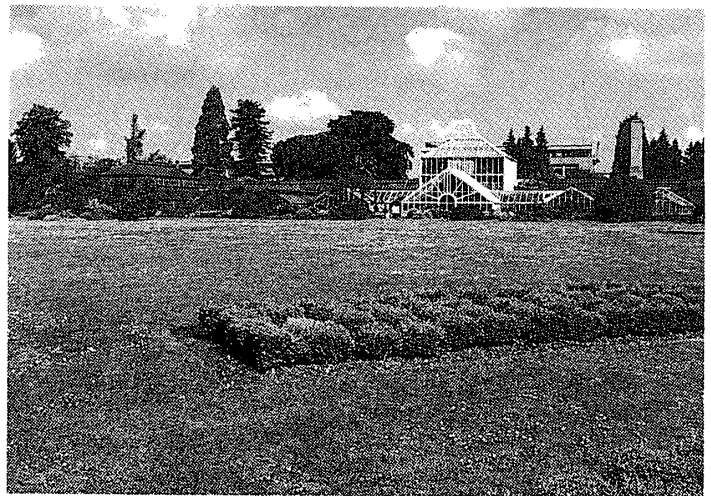


写真2 温室群遠望：ケムブリッジ大学植物園

中に200種近い海外渡来植物をその導入年代順に配列した年代花壇が長く続き、園地の最奥にケムブリッジロータリイクラブ寄贈の亭が建っている。

園路を戻り噴水を左手に見て、その手前を右にカーヴすると広い芝生の奥に、1925年に園長舎宅として建築された瀟洒なコウリィロッドが見える。現在は事務所、図書館、標本室として使用されている。その左手前に20世紀後半(1951-74)園長を務めたジョン・ギルモアを記念して植物友の会の有志によって1989年に建てられたギルモアビルディングがあり、会議室、売店、軽食堂が設けられている。その奥には研究所があり、隣接の研究圃場と共に縦覧謝絶となっている。一休の後、温室群に向かう。温室は大小8棟と、それらを連絡する通廊が公開されている。略々中央の熱帯植物

大温室他東側4棟がアルミサッシの近代的に改築されたもので、西側は木骨の旧式建築である。通廊の両端が出入り口になっている。西側の木造温室から入る。この部屋は外観2層、内部は吹き抜けの大きなもので温帯植物を収容している。続く小温室にはアルパイン即ち高山植物の展示がある。中央大温室と左右の小温室の合計3室が熱帯植物温室になっていて、ヤシを始め様々な熱帯植物が収容されている。次の小温室には食虫植物各種が展示され人気を博している。次ぎに新世界即ちカリブ海地方やアメリカ大陸起源のサボテン類の展示室やシダ植物の展示室が続く。東口から出て温室群を眺めながら広い芝生を通り抜けてロックガーデンに至る。

ロックガーデンは大小の石灰岩造りの高さ数メートルの築山で、大小、高低不揃いのテラスにヨーロッパ、アジア、南アフリカ、オーストラリア、アメリカ等世界各地のロックプランツを原産地別に配置展示している。今一つシャクナゲ等ツツジ科の石灰忌避植物のための砂岩造りの小さなロックガーデンがあり、土壌酸性保持のために毎年堆肥を施していると言う。



写真3 池とロックガーデン：ケムブリッジ大学植物園

ロックガーデンの下に自然風の池があり、岸边には水湿植物が生え、スイレンの葉陰にクイナが遊泳している。トラムピントンゲイトの前から園路を逆にベイツマンストリートゲイトに戻る。

Cambridge University Botanic Garden, University of Cambridge

Cory Lodge, Bateman Street, Cambridge CB2 1JF

Tel: (01223) 336265; Fax (01223) 336278

e-mail: enquiries@botanic.cam.ac.uk

web: www.botanic.cam.ac.uk

ケムブリッジ駅から徒歩5分、ステーションロードゲイト(週日)から、或いはM11又はA10からトラムピントンロード(A1309)を経てベイツマンストリートへ入り、ベイツマンストリートゲイト(毎日)から入園。

開園日: 12月25、26日を除き毎日開園。

開園時間: 庭園: 11-1月: 10am-4pm

2-10月: 10am-5pm

3-9月: 10am-6pm

温室: 2-10月: 10am-4:30pm

11-1月: 10am-3:45pm

中 田 久 雄

入園料：大人（17－60才）：£ 2.50、60才以上及び5－17才：£ 2.00、5以下の小人及び身障者並びにその介助者は無料。

以上の入園料は3－10月の間は徴収、但し冬期間（11－2月）は土日曜日及びバンクホリデイのみ徴収し週日は無料。

軽食堂は3－10月の間10amより開店。車椅子可。身障者用トイレあり。犬は誘導を要す。

●エシックス（ESSEX）

北はケムブリッジシャーとサファク、西はハーファッドシャー、南はロンドンとテムズ川の下流に接し、東は北海に面して居る。北西部が丘陵地、南東部が平地で気候は乾燥温暖である。



図3 エシックス州地図

●ベス チャトウ ガーデン

◎ベスチャトウガーデン（The Beth Chatto Gardens）

1960年代、ベス チャトウ女史はそれまで全く顧みられなかった排水不良の湿地や乾燥地を非常な努力の末、現在見る如き見事な庭園に仕立てた。高いレイランドサイプレスの刈り込み生け垣を抜けると直ぐ左手に作業小屋の片隅にナーセリー受付兼ショップがあり、傍らに椅子テーブル等ガーデンファニチャーが備え付けられている。正面右手の旧駐車場跡地に細長い敷地のグラヴェルガーデン（砂礫庭園）があり、大小6個の島床花壇を設け乾燥に耐える草花が

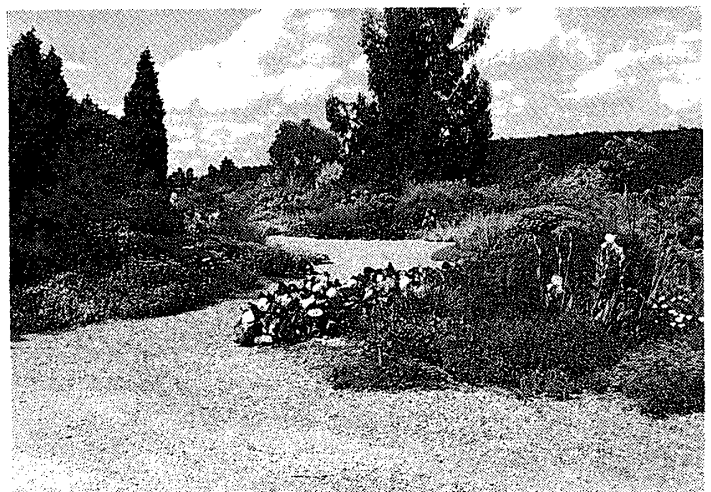


写真4 グラヴェルガーデン：ベス チャトウ ガーデン

植栽されている。此のグラヴェルガーデンは女史が最も心血を注いだ地域の一つで、夫君と共に世界各地を巡り長年に亙り構想を練り、1991年に土壤改良に着手し、翌年春に植え付けを開始しほど

なく完成に漕ぎ着けたと言う。ヘッジとの間には手前に丈の低い草花を配し順次高い草花、灌木、樹木を植え込み背後のヘッジと一体となるよう工夫されている。グラヴェルガーデンの末端を左折すれば深い木立に囲まれた窪地の池沼に水湿植物を集め、そこを水源とした緩い流れと3個の連続した池の兩岸に芝地を配したメインとなる回遊式庭園があり灌木類や竹類のコレクションが見られる。池の前から緩い坂道を元に戻る様に登ると家屋に接して近年造成のスクリーガーデンに至る。長さ30メートル、幅20メートル足らずの敷地に大小5個の島床花壇とその両側長手方向にボーダーを配した小さな庭園でグラヴェルガーデンと同様乾燥地の草花が植栽されて居る。斯く地形、土壌の乾湿を巧みに利用し苛酷な条件を克服し庭園を完成させた所に当園の最大特徴があり、ベス チャトウ女史の執念が伺われる。スクリーガーデンから別の坂道を下り芝地に戻る。主庭園の奥に樹木園があり、常緑、落葉各種の大木が女史の所謂リーフィーヘイヴン（緑陰安息所）を成しゲラニウム、ブルーベルや近年流行のギボウシその他、様々の多年草が彩りを添えている。広い苗圃を経て入り口に戻る。



写真5 メインガーデンと池：ベス チャトウ ガーデン



写真6 リーフィーヘイヴン：ベス チャトウ ガーデン

The Beth Chatto Gardens, Mrs Beth Chatto

Elmstead Market, Colchester C07 7DB, Tel: (01206) 822007

エルムステッドマーケット(Elmstead Market)の東 400メートル、A133沿いに在り。

駐車場、トイレットの設備、苗圃、苗木販売所有り。

開園：3-10月；月-土曜；9am-5pm, 11-2月；月-金曜；9am-4pm、日曜日、バンクホリデイ（銀行休日）は閉園。

入園料：大人；£3、小人：無料。

●ハーファッドシャー (HERTFORDSHIRE)

北はケムブリッジシャーとベドファッドシャー、西はベドファッドシャーとバッキンガムシャー、南はロンドン、東はエシックスに接し大部分チルトンヒルズの丘陵地帯を成し石灰岩とチョークの台地である。乾燥温暖な気候で年間降水量は 700mm 前後である。

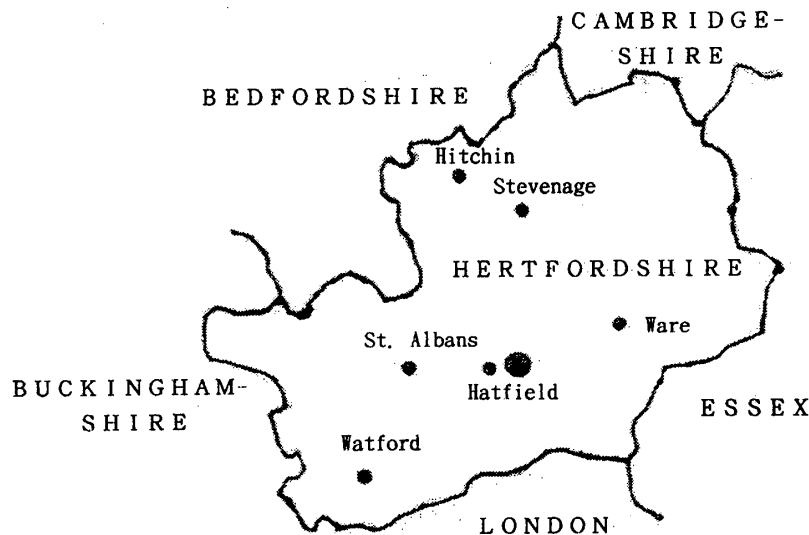


図4 ハーファッドシャー州地図
●ハットフィールド ガーデン

◎ハットフィールドガーデン (Hatfield Gardens)

ソルズベリイ侯爵家の宮殿ハットフィールドハウスに付随した庭園である。ハウスはジェイムズ 1 世の宰相を務めたロバート セシルにより1607年から1612年の間に建築されたジャコビアンスタイルの壮麗なものである。庭園はプラントハンターの草分けジョン トラDESCANT (父) が設計、植栽を担当したと言う。風景式造園が流行りだした18世紀にはトラDESCANTの事績は一掃され庭園は衰退した。その後2世紀に互り同家の後継者にはさしたる人物も出ず、政界から無視されるに至った。殊に第6代伯爵は全くの放蕩者で家族の信用も失った。しかしその息子第7代伯爵ジェイムズは優れた人物でジョージ3世の宮内大臣として侯爵に列せられ栄光を回復した。その夫人エミリー メアリ ヒルは希代の美人、発展家で、領内を馬で乗り回し領民に金貨をばら散いたり、邸内の大広間で博打に夜明かししたり、奇行の噂は絶えなかった。この間庭園経営には全く無関心で、屋敷内に狩猟場を取り込み80才の高齢に至るまで狩猟に興じたが、その末路は失火による焼死と言う哀れなものであった。この火災で館の西翼の内部は大方消失してしまった。

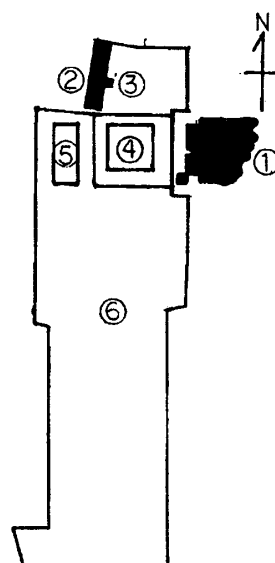


図5 ハットフィールドガーデン 西苑

- ①ハットフィールド
ハウス
- ②旧宮殿
- ③ノットガーデン
- ④ブリヴィイガーデン
- ⑤香草園
- ⑥自然園

その子息第2代侯爵ジェイムズは母に似ず、内装修復に当たっては母の趣味を一掃してエリザベス調に戻した。邸館並びに庭園は逐次復旧し、ヴィクトリア女王陛下の行幸を仰いで以来更に盛んとなった。

第3代侯爵ロバートは傑出した人物でヴィクトリア朝時代3度も首相を務めヴィクトリア朝並びに大英帝国の栄光を築いた。その後歴代侯爵は政界に貢献し、多くの貴顕がハットフィールドを訪れその栄光に花を添えた。庭園は、この30年来現在の侯爵夫人の努力により、益々整備され今日に至って居る。

ハットフィールド駅の正面に対して建つ正門から広い進入路を途中右折して進むと館の正面に至る。ヘッジで囲まれた正面広場は大駐車場になっている。

館の右隅の西苑園入り口から入ると正面にエリザベス1世の幼少時の住处であった旧宮殿の一部が残されて居る。此の宮殿はヘンリー7世時代1497年に建築され、ジェイムズ1世時代まで王邸として使用されて居たが、ジェイムズ1世はハットフィールドの宮殿に執着せず、寧ろロバートセシルの住まい、シイバルドに執心であったので、それと交換にロバートに下げ渡された。当初は中庭付きの方形平面であったがロバートがその3辺を取り壊しハウスの建築資材に充てたために現存の1棟が残り20世紀に至り第4代侯爵ジェイムズ セシルにより修復整備され現在の姿になった。その前庭即ち元の中庭の位置に、中央に噴水を配したノットガーデンとメイズがある。本庭園は1984年に現在のソルズベリイ侯爵夫人によりエリザベス

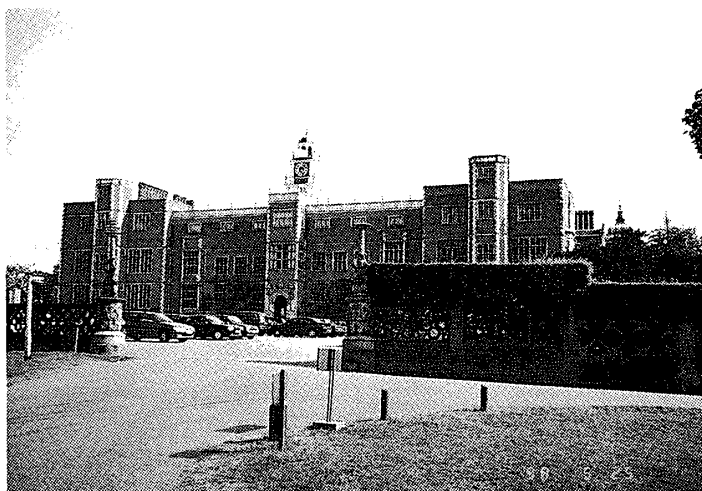


写真7 ハットフィールド宮殿：ハットフィールド



写真8 旧宮殿：ハットフィールド

調のデザインに仕立てられ、中の植栽は15-17世紀の植物が用いられていると言う。左手の一段高いブリヴィイガーデンとの間には木製の階段と通路に沿った低いトレリスが設えられ、ノットガーデンが上から眺められる様になっている。

ブリヴィイガーデンは第3代侯爵の末娘グエンドリンが古式に則り設計したもので、人の背丈ほどのイチイのヘッジで囲まれた50メートル四方ほどの園地の中に更に低いヘッジで仕切られた花

中 田 久 雄

壇と中央に噴水を配した円形のスイレン池がある美しく飾られた整形式に近い佇まいを成して居る。

西側の境界線とプリヴィイガーデンとの間には香草園が有り芳香性の灌木や蔓性植物或いは草花が植栽されている。

プリヴィイガーデンと香草園の南側に南北に長く3ヘクタールに及ぶ自然園がある。ここはサクラソウ、チュウリップ、シラー、ブルーベルやその他の野草類を下草としたオウクやブナの林地で草付き道が縦横に走っている。この林地の北東端から宮殿の南面の壮麗なフォーマルガーデンを垣間見ることが出来る。

東苑には大花壇群、大メイズ、広大な池、果樹園、菜園等があり、西苑に勝るとも劣らぬ壮観の模様である。月曜日のみ公開されている筈であるが、当日はバンクホリデイのため閉園で、残念ながら拝観不能であった（現在は非公開で金曜日コナッサーズデイとして造園、美術専門家にのみ入園許可されている）。

ハットフィールドハウスの屋内は長さ50メートル余りにも及ぶロングギャラリーを初め各室整備が行き届き、エリザベス1世陛下を初め歴代当主の肖像画、16世紀以来の家具調度品、甲冑、タペストリーやヴィクトリア女王陛下の写真等も飾られて居る。屋内拝観だけでも1時間はかかる。

Hatfield House and Gardens, The Marquess of Salisbury

Hatfield, Hertfordshire AL9 5NQ

Tel: (01707) 262823; Fax: (01707) 275719

ロンドンの北33.6km、A1(M1)No. 4 ジャンクションからA414を経てA1000、ハットフィールド駅前に正門あり。ロンドンから鉄道利用はキングズクロス(Kings Cross)駅かムアゲイト(Moorgate)駅から30分、ハットフィールド駅下車。

開園日時：宮殿：火-木曜日（ガイド案内のみ）、金曜日（コナッサーズデイ）：予約団体

（20人）のみ；正午-4:pm, 土日曜日（ガイド案内なし）：1-4:30pm

バンクホリデイ（ガイド案内なし）：11am-4:30pm

パーク：毎日10:30am-8pm、金曜日：11am-6pm

庭園：西苑：火-日曜日：11am-6pm、

東苑：金曜日（コナッサーズデイ）のみ：11am-6pm

入場料：宮殿、パーク及び庭園：大人：£7.50、小人：£4.00、団体（20人以上）：各£6.50

パークと庭園：大人：£4.50、小人：£3.50

パークのみ：大人：£2、小人：£1

コナッサーズデイ：宮殿、パーク及び庭園：£10.50、パークと庭園：£6.50

車椅子可。犬はパークのみ可、誘導を要す。ピクニック可。喫茶室、食堂、売店、プラントセンターあり。

●ノーファク（NORFOLK）

北と東は北海に面し、西はケムブリッジシャー、南はサファクに接する。西側にグレイトウース川河口の低湿地、東側はイエア川、ビュウ川の流域平野を成し、中央は低くうねった丘陵地である。

年間降水量は 700mm 前後、小雨温暖な気候である。地質はチョークと石灰岩台地に粘土や砂土が覆っている。

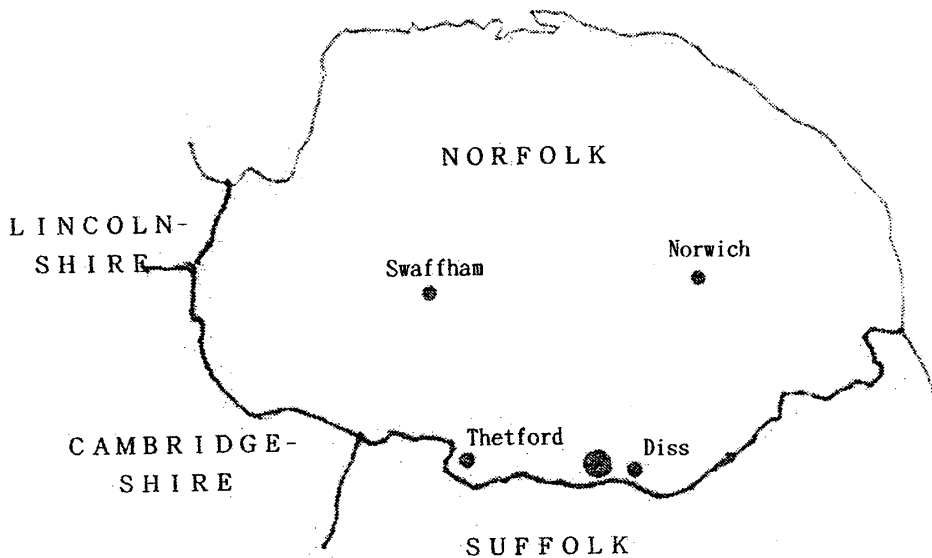


図6 ノーファク州地図

●ブレッシンガム

◎ブレッシンガム (Bressingham)

オーナーのアランブルームが多年の苦勞の末開設した苗圃と、それに付随する庭園である。広い苗圃には、幼年時魅せられた蒸気機関車のコレクションとそれを運転する鉄道線路が設けられている。一般大衆には寧ろこの方面で知られ人気がある。

入り口正面には売店、トイレット、応急救護所を付設した、コレクションの一部を収納展示する展示館が建っている。その前には苗圃を一巡するナーセリイレイルウェイと称するミニ鉄道の乗り場があり、小さな蒸気機関車にトロッコ客車を連結した列車が、子供たちを誘う汽笛を盛んに鳴らして待機していた。その前を通過して標準軌の線路を横切りカッパービーチの木立を潜り抜けるとツタの絡んだブレッシンガムホールの前に出る。ブレッシンガムホールは予約すればB & Bとして客の便宜を図って

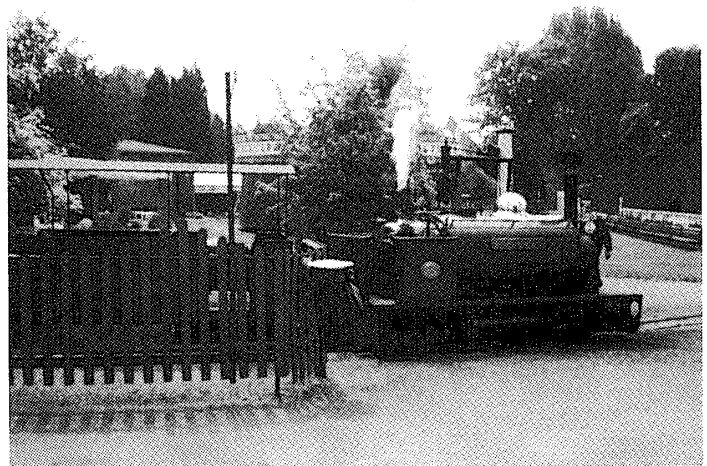


写真9 ミニ鉄道：ブレッシンガム



写真10 ブレッシンガムホール：ブレッシンガム

呉れる。館の前には数個の立ち上げ島床花壇が設えられ宿根草が溢れている。

館の前からデルガーデンが開けている。此处は元の窪地を利用した2.8ヘクタールの庭園で、窪地の両側に競り上がった緩傾斜面に赤や白のサンザシを始め色々な樹木や灌木を配し、窪地を通路として芝地とし、多くの島床花壇を配置してある。通路の途中にフリント造りの築堤と橋が架かり、橋を潜り抜けた道の両側にも様々な草花を植えた花壇が連なっている。橋は放牧場の時代に家畜を



写真11 フォギイボトム：ブレッシンガム

通すための物であった。この橋の他、塀や壁等の施設はアラン自信の手造りで、彼は此の方面でも玄人裸足の職人芸を見せている。

デルガーデンから道路（私道）を横切り、防風林を越えてフォギイボトムに至る。フォギイボトムはエイドリアンブルームが1963年に開設したもので2ヘクタールの平坦な土地にコニファー（針葉樹）やヘザー（ヒース）が収集展示されている。庭園の一角には瀟洒な平屋建のエイドリアンの住居兼研究室が建っている。

The Dell, Bressingham (Bressingham Steam Museum and Garden), Mr. Alan Bloom
ディス(Diss)の西3.2km, A1066沿いにあり。

開園日時：4月始めから9月末まで毎日；10am-5:30pm

入園料（展示館と庭園）：£4,50

車椅子可、レストラン、トイレット、売店、プラントセンターあり。

●ロンドン（LONDON）

①ケイペルマナー（Capel Manor）

所在地はミドルセックス州だが環状道路M25の内側はロンドンに含めて登載されている(2)。エンフィールド郊外にある庭園見本展示場と付属の造園学校からなる。

メインゲイトから広い駐車場を経て入り口ヘッセイオンセンターに至る。センターを通過すると左手にヘッジ、トレリス、板塀、納屋、四阿屋その他様々な庭園施設の見本が展示されている。続い



写真12 ヴィクトリアンガーデン：ケイペルマナー

て幾つかのモデルガーデンがあり順路に従って行くと、やがてテーマガーデンに至る。黄色を基調としたイエロウガーデン、ヴィクトリア調ガーデン、モダンガーデン、トピアリイガーデン、ピンクウォークやブルーガーデン等の見本庭園が続く。その先に身障者向けのガーデンとして、車椅子に座ったまま作業したり眺めたり出来るように設計された各種立ち上げ花壇や水盤等を配置した一隅がある。引き返してテーマガーデンのヘッジを抜けると、広々とした芝生の一



写真 13 身障者用チャレンジガーデン：ケイペルマナー

角に不整形の池を穿ち欄干から橋本体に至るまで赤く塗った太鼓橋を架け、銅製の番の鶴の像を置き岸边には草葺きの四阿屋を設け灯籠を配した、近年欧米で流行の日本まがいの所謂ジャパニーズガーデンがあり、周囲の景観とは場違いの感がある。広い芝生の中の二重のヘッジで囲まれた中に噴水を配したイタリアンメイズがある。それを右に見て、その先のノースローンを進むと、やがてマナーハウスのケイペルハウスの前になる。ハウスの前面は少々広いサウスローンとなっており、片隅の宿根花壇から芝生に沿って弧状の浅いハーハがその先のサウスパークとの境界をなしている。ハーハを越えたサウスパークの西寄りにワイルダーネスと称する全く手付かずの原生林を思わせる地域がある。ウィリアム ロビンソンを始めとする19世紀末の自然学派により再認識された景観をなしている。その林中にはゲイトウェイフォリイと称する石門の廃墟がさりげなく佇んでいる。

ワイルダーネスを一巡りして北上すると、イタリアンメイズと敷地の境界との南北に細長い地帯がウッドランドウォークと称し、ワイルダーネスの延長の様な景観をなす。左右の樹木や灌木の間を細い歩道が通じている。この中にはスプリングウッドランドガーデンやホリイ（セイヨウヒイラギ）コレクションがあり、酒の神バックスの神殿やジェームズ1世の塙壁が続く。そこを抜けると広々とした敷地に、雑誌「ガーデニングウィッチ」が運営する果樹園や野菜園その他の見本展示園があり、見学者はここから様々なヒントを得て新たな試みに挑戦出来ると言う。見本庭園を経てもとのセンターに戻る。

Capel Manor, Capel Manor Charitable Corporation

Bullsmoor Lane, Enfield, Middlesex EN1 4RQ

Tel: (020) 8366 4442

M25の No. 25ジャンクションからA10をへてブルズムアレイン(Bullsmoor Lane) 沿いにあり。

開園日時：3－10月毎日；10am－5:30pm（最終入園4:30pm）

11－2月：月一金曜日（時間に異動あり、電話照会の事）

入園料：大人：£ 4、老人：£ 3.50、小人：£ 2

車椅子可。犬は誘導を要す。軽食堂、トイレット、売店、種苗特別売り出し日あり。

②チェルシー薬草園 (Chelsea Physic Garden)

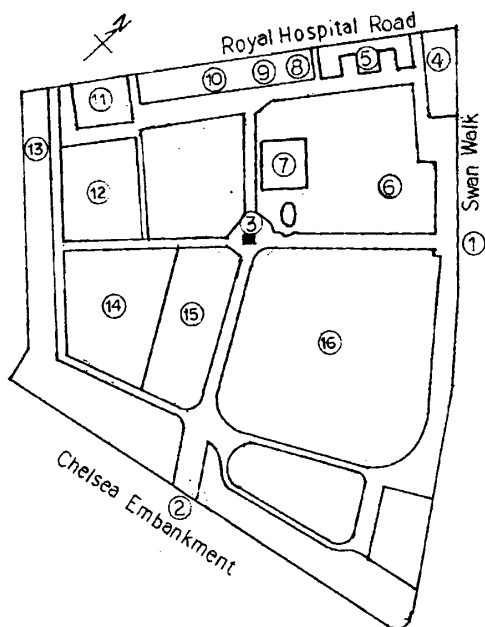


図7 チェルシー薬草園地図

- ①スワン ウォーク 入り口
- ②チェルシー エンバンクメント ゲイト
- ③スロウン像
- ④事務所
- ⑤温室
- ⑥果樹、野菜、染料植物見本園
- ⑦薬草園
- ⑧売店
- ⑨展示室
- ⑩講義室
- ⑪研究所
- ⑫フィリップ ミラー 庭園
- ⑬イギリス在来植物
- ⑭単子葉植物系統分類園
- ⑮樹木園
- ⑯双子葉植物系統分類園

南側はテムズ川沿いのチェルシーエンバンクメント、北西側と北東側は夫々ロイヤルホスピタルロードとスワンウォークに挟まれた三角地の僅か1.4 ヘクタールの地に1673年に薬剤師協会に依って開設された薬用植物園である。設立以来幾度か危機に瀕したがその都度篤志家の助けを得て今日に至っている。現在は薬用植物以外の植物全般を収容する普通の植物園と変わらないが名称は伝統を守って「フィジックガーデン」として一般に知られている。

テムズ川に面して立派なチェルシーエンバンクメントゲイトがあるのだが閉鎖されていて通常はスワンウォークの入り口から入る。入り口から真っすぐに伸びた少々広い園路の中程の広場の中央に18世紀初頭、維持費に窮したときに救いの手を差し伸べた富裕な御典医サー ハンズ スロウン (Sir Hans Sloane) の石造の立像が建っている。入り口の直ぐ右手にザクロ、その奥に月桂樹の大木が立っている。この辺りは果樹や野菜の見本園となっており、ハーブや



写真14 ハーブガーデン：チェルシー薬草園

染料植物の見本園等、人気の集まる所である。ロイヤルホスピタルロード沿いには研究室、展示室、講義室、事務所、売店、プラントショップ等が並んでおり、その北隅に温室があつて、アフリカ始

め世界各地の熱帯雨林植物が収容されている。温室を出ると有毒植物や解毒用植物、さらには民間療法の薬草見本園もある。中央広場スロウン像の際に小さな池とロッケリイが設けられている。少々広い芝生を越えた先に18世紀半ばに約50年間に亙り園長を務めたフィリップ ミラーを記念した庭園がある。南西の隅にイギリス在来の植物、その隣にオーストラリア産の植物の収集展示園が続く。メインロードの南側に単子葉植物の展示場、その一角にジャーマンアイリスの品種見本園が花盛りである。隣接の林地の中にイチョウの木が2本聳え、エンバンクメントゲイトに通ずる道路の東側には双子葉植物の系統分類花壇が広がっている。スワンウォークボーダーを通過して入り口に戻る。

Chelsea Physic Garden, Chelsea Physic Garden Company

66 Royal Hospital Road, London SW3 4HS

Tel: (020) 7352 5646

チャリングクロス(Charing Cross)の南西 4.5km、地下鉄(ディストリクトライン又はサークルライン) スロンスケア(Sloane Square)下車、徒歩20分。

開園日時: 4-10月、日曜日: 2-6 pm; 水曜日: 正午-5 pm,

チエルシーフラワーショウ開催期間中及びチエルシーフェスティバル週間: 正午-5 pm

入園料: 大人: £ 4; 学生、小人、失業者: £ 2

車椅子可。喫茶室、売店、トイレあり。

◎ロウズマリイ ヴェアリイ女史の訃報とバーンズリイハウスのその後

第2報で紹介したロウズマリイ ヴェアリイ(Rosemary Verey)女史は2001年5月21日逝去、行年82才。長年に亙る園芸の啓蒙と発展に寄与した功績により、1996年にOBE(Order of the British Empire)を授与され、又1999年には王立園芸協会最高栄誉のヴィクトリアメダルを授けられた(6)。

女史の死去に伴い子息のチャールズヴェアリ氏は同ハウス及び庭園を売却する方針を表明し、愛好者はその成り行きを懸念していた(7)。近々地方のレストラン経営会社(Tim Haigh and Rupert Pendered)が取得し、ハウスはホテルレストランとして営業し、庭園は故人の意志に沿って維持する方針を表明した。これにより庭園は救われ、愛好者一同は一先ず安堵した(8)。

参考文献及び資料

1. Chatto, Beth: Beth Chatto's Gravel Garden. Frances Lincoln Ltd. 2000
2. King, Peter: The good gardens guide 2000. Bloomsbury Publishing Plc. 2000
3. Lord Cecil, David: Hatfield House. Gascoyne Holdings Ltd. 1997
4. The Marchioness of Salisbury: The Garden at Hatfield House. St George's Press. 1989
5. Young, Jgeofrey: Walking London's Parks and Gardens. New Holland Publishers(UK). 1998
6. The Garden 126(8) 590. 2001
7. ----- 127(8) 585. 2002
8. ----- 127(9) 665. 2002
9. Histric Houses and Gardens. Norman Hudson & Company. 2000
10. 各庭園案内リーフレット、パンフレット及びインターネットホームページ